

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

| | | | | |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英) | 情報システム総合演習 | | 授業コード | P150151 |
| 担当教員名 | 赤星 哲也・濱田 大助・星之 貢行・高 又局・坂井 美穂・足立 元・坪倉 篤志・吉森 聖貴・福島 学・鈴木 秀男・松永 多苗 | | 科目ナンバリングコード | |
| 配当学年 | 3 | 開講期 | 後期 | |
| 必修・選択区分 | コース必修 | 単位数 | 2 | |
| 履修上の注意または履修条件 | 3年前期までに開講される必修科目、コース必修科目を修得済みであることが望ましい。 | | | |
| 受講心得 | | | | |
| 教科書 | | | | |
| 参考文献及び指定図書 | | | | |
| 関連科目 | 研究ゼミナールA、研究ゼミナールB、卒業研究 | | | |

| | |
|-------|---|
| 授業の目的 | 卒業研究に必要となる、卒業論文の書き方、研究計画の立て方、研究テーマの決め方等について演習形式で修得します。 |
| 授業の概要 | 卒業研究に必要となる、卒業論文の書き方、研究計画の立て方、研究テーマの決め方には共通する形式があります。本科目では、研究ゼミナールB担当教員の指導を受けながら、研究ゼミナールBの内容を技術報告書の形にまとめていく演習を通して、卒業研究を遂行するために必要とされる技術を修得していきます。 |

| ○授業計画 | |
|--|-------------|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第1週：ガイダンス この科目の目的、到達目標、学修内容、学修方法(受講心得)、成績評価方法について説明します。 | |
| 第2週：技術報告書の書き方、卒業研究の方法 研究ゼミナールBで学修する内容を技術報告書の形でまとめる方法について解説します。 | |
| 第3週：技術報告書の作成演習(1) 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | |
| 第4週：技術報告書の作成演習(2) 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | |
| 第5週：技術報告書の作成演習(3) 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | |
| 第6週：技術報告書の作成演習(4) | |

| | | |
|--|-----------------|-----------------|
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第7週：技術報告書の作成演習(5) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第8週：技術報告書の作成演習(6) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第9週：技術報告書の中間発表会 | | |
| 第8週までに作成した技術報告書の成果について、中間発表を行います。 | | |
| 第10週：技術報告書の作成演習(7) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第11週：技術報告書の作成演習(8) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第12週：技術報告書の作成演習(9) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第13週：技術報告書の作成演習(10) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第14週：技術報告書の作成演習(11) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第15週：技術報告書の作成演習(12) | | |
| 研究ゼミナールBの担当教員の指導を受けながら、技術報告書を作成していきます。 | | |
| 第16週：技術報告書の最終発表会 | | |
| 第8週までに作成した技術報告書の成果について、最終発表を行います。 | | |
| 授業の運営方法 | (1) 授業の形式 | 「演習等形式」 |
| | (2) 複数担当の場合の方式 | 「複数クラス方式」 |
| | (3) アクティブ・ラーニング | 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| 地域志向科目 | | |
| 備考 | | |

| | |
|-----------------------------|---|
| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
| 【関心・意欲・態度】 | 自ら意欲的に演習に取り組む。 |
| 【知識・理解】 | 卒業研究の取り組み方に関する知識を修得する。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | 卒業論文の書き方を修得する。 |
| 【思考・判断・創造】 | 研究ゼミナールBの内容にもとづき、卒業研究の研究計画、研究テーマ決めを行うことができるようになる。 |

| | | | | |
|-------------------------|---------------------|-------------------|------------------|------|
| ○成績評価基準(合計100点) | | | 合計欄 | 100点 |
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等 (テスト) | レポート・作品等 (提出物) | 発表・その他 (無形成果) | |

| | | | |
|--|--|-----|--|
| 【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | 25点 | |
| 【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。 | | 25点 | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | 25点 | |
| 【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。 | | 25点 | |

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
|-------------------|--|
| レポート・作品等 (提出物) | 技術報告書の最終成果物の内容について評価します。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 |
| 発表・その他 (無形成果) | |